



レンジフードファン

形名

V-584H3

据付説明書

販売店・工事店様用

1603870HK2006

据付けを始める前に、この据付説明書をよくお読みください。

据付けは販売店様、または専門の工事店様が実施してください。

- 本製品は住宅の台所用です。業務用途では使用できません。
- 本製品の施行にあたっては、地域により防災上での制限（内装材の制限、補強板・枠の材質の制限、可燃物との距離の制限、シャバラの使用など）がありますので、詳細は行政官庁または、消防署にお問い合わせください。
- 丸排気タイプの接続ダクトはφ150の鋼板管・スパイラルダクトのいずれかをご用意ください。
- システム部材は三菱換気送風機総合カタログより別途ご用意ください。

別冊の「取扱説明書」はお客様用です。お客様に必ずお渡しください。

安全のために必ず守ること

警告

誤った取りいをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの

	電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない (傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、引っ張ったりしない) 感電・ショート・火災の原因。
	内金式風呂を設置した住宅では使わない 排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒の原因。
	直接水のかかる場所や湿気の多い場所には据付けない 水滴および故障の原因。
	改造や必要以上の分解はしない 火災・感電・けがの原因。
	アースを確実に取付ける 故障や漏電した場合感電の原因。

注意

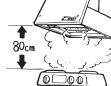
誤った取りいをしたときに軽傷または家屋・家具などの物的損害に結びつくもの

	浴室など湿気の多い場所では絶対に据付けない 感電・故障の原因。
	運転中は危険ですから、羽根の中に指や物を入れない けがの原因。
	据付け後長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜くか、分電盤のブレーカーを切る 絶縁劣化による感電や漏電・火災の原因。

据付け前のお願い

室内周囲温度は40°C以下とする。また、下図の寸法を守る
(本体の下端からガスレンジまでは80cm以上必要です)

(モータ故障や排気ガスによる塗装面のサビ発生の原因となります)

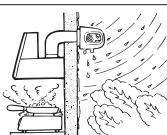


ダクト工事

- 排気ダクトは雨水の浸入を防ぐため屋外に向けて1/100以上の下りこう配をつける。
先端に屋外フード（システム部材）などを取付けることをおすすめします。また、屋外フードはメンテナンスができる位置に据付けてください。
- 次のようなダクト工事はしない。（風量低下や異常音発生の原因になります）

- 極端な曲げ
- 多数の曲げ
- 吐出口のすぐそばでの曲げ
- しづぼり

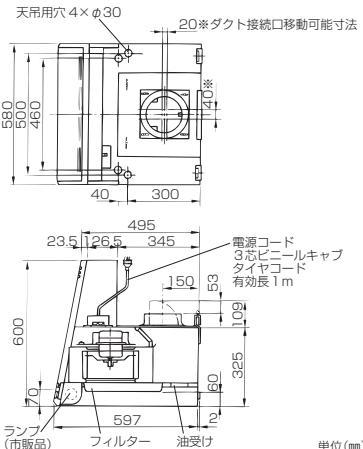
●システム部材の選定には圧損の少ないものを使用してください。（製品性能が得られないことがあります）



- 室内には専用の給気口を設けるようにしてください。
(扉の開閉が困難になったり、製品性能が得られないことがあります)

●風の影響を受けやすいため、空調機や給気口からの風が調理の油煙に直接あたらないようにしてください。(油煙等の漏れの原因となります)

外形寸法図

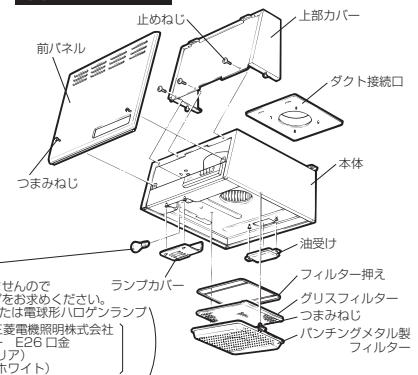


付属部品

●下記の付属部品があります。

壁取付金具……1個	パッキン……1個
特殊ワッシャー……4個	木ねじ用ワッシャー……4個
木ねじ……4本	

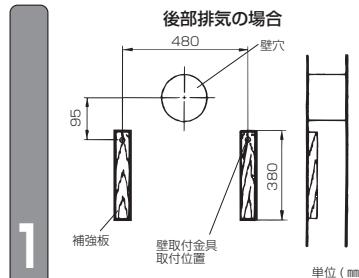
各部のなまえ



据付方法

本体の据付けには、天井据付けと壁据付けがあります。

一 据付け前の準備



ダクト配管・取付壁による準備をします。

板張りの場合

- 板厚20mm以上の場合は直接壁に据付けてください。20mm以下の場合は20mm以上になるよう補強板を取付けてください。

コンクリート・タイル・土壁の場合

- 新築の場合はあらかじめ補強板を壁に埋め込んでください。
- 既築の場合はコンクリートビスなどを利用するか補強板を固定して据付けてください。

メモ

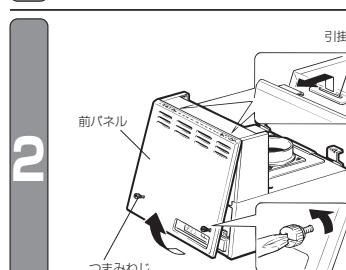
- 既築の住宅では、補強板が壁面より露出することになりますのでレンジフードファンは壁に密着しません。

天吊ボルト

- 天井据付けの場合は外形寸法図を参照して天吊用穴位置にあらかじめ市販の吊りボルト(M8)2本を埋め込んでください。

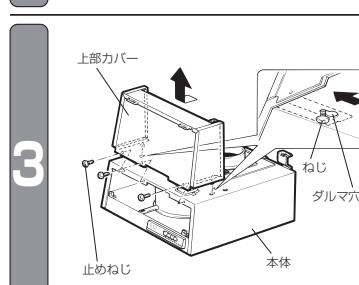
ダクト工事

- 壁穴をあけてその中にφ150のダクト（鋼板管・スパイラルダクト）を配管し、その周囲の仕上げを行ってください。



前パネルをはずします。

つまみねじ2本をドライバーなどでゆるめ上部の引掛部からはずします。



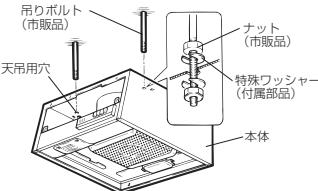
上部カバーをはずします。

止めねじ3本をはずし、本体内部のダルマ穴のねじ2本をゆるめて手前で引きます。

■据付方法 づき

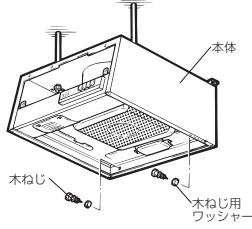
一天井据付けの場合

1



- 本体を吊りボルトで吊します。**
- (1) 外形寸法図を参照して、あらかじめ吊りボルトを埋め込み、市販のナットを取り付けておきます。
 - (2) 本体の天吊用穴2か所（4か所のうち2か所）を利用して本体を吊りボルトに吊します。
 - (3) 左図のように付属の特殊ワッシャーを介してナット（市販品）で固定します。

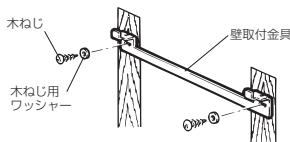
2



- 本体を固定します。**
本体内部より壁面に向けて付属の木ねじ・木ねじ用ワッシャー（各2個）で本体を固定します。

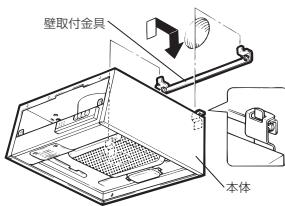
一壁据付けの場合

1



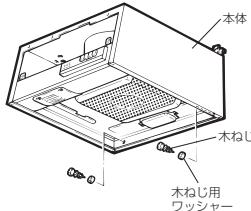
- 壁取付金具を取付けます。**
付属の壁取付金具を付属の木ねじ・木ねじ用ワッシャー（各2個）で壁面に水平に据付けます。

2



- 本体を壁取付金具に引掛けます。**

3



- 本体を固定します。**
本体内部より壁面に向けて付属の木ねじ・木ねじ用ワッシャー（各2個）で本体を固定します。

一ダクト工事

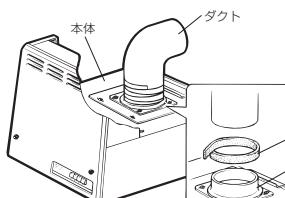
1



ダクト接続口取付位置の調整

あらかじめ配管してあるダクトとダクト接続口とにずれが出た場合は左図の範囲で調整できます。
長穴調整になっていますのでねじをゆるめて調整範囲ですらしダクトと合わせて再度固定します。

2



ダクト接続口を固定します。

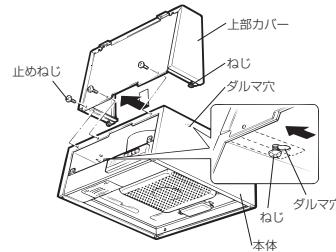
ダクト接続口に付属のパッキンを巻き付けダクトを接続し、市販のアルミテープなどで風漏れのないようテープします。

一電気工事

電源プラグと同形のコンセントを設けて電源プラグを差し込みます。

※アースはD種接地工事を実施してください。

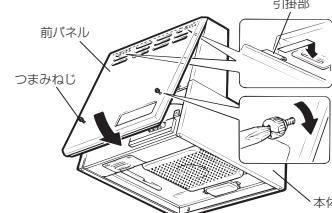
一上部カバーの取付け



上部カバーを取付けます。

- (1) 上部カバーに付いているねじ2本を本体のダルマ穴にねじ込むように上部カバーを後方へ押して取付けます。
- (2) 本体内部のダルマ穴のねじ2本と本体前面の止めねじ3本をしっかりと締め付けて固定します。

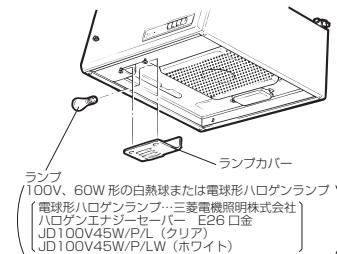
一前パネルの取付け



前パネルを取付けます。

- (1) 上部の引掛部を本体に引掛けます。
- (2) つまみねじ2本を締め付け、前パネルを本体に固定します。

一ランプを取付ける場合



ランプは付属されていませんので市販のランプ（100V60W形の白熱電球または電球形ハロゲンランプ口金径26mm）をお求めください。

- (1) ランプカバーのねじ2本をゆるめてランプカバーをはずしてランプを取り付けます。
- (2) ランプカバーのダルマ穴をねじに通して締め付け、元通りに固定します。

■据付け後の確認

■据付けが終わりましたら、次の確認をしてください。



警告 ランプを点検する際は必ず電源プラグをコンセントから抜くか、分電盤のブレーカーを切る。
感電の原因。

1. 本体はしっかりと固定されていますか？ランプはゆるんでいませんか？
2. D種接地工事は実施されていますか？

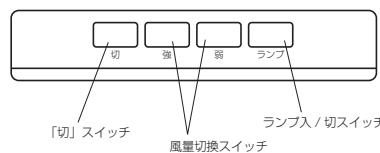
■チェック表にしたがって点検します。不具合があった場合は必ず直してください。

（機能が発揮されないばかりか、安全が確保できません）

〈チェック表〉

据付け後の確認	チェック項目	不具合時の対策	チェック
	本体は確実に固定されていますか？	本体を確実に固定します	
	ランプはゆるんでいませんか？	ランプを確実に取付けます	
	電圧は交流100Vですか？	交流100Vに直します (直流や異電圧を印加すると製品が破損します)	
	D種接地工事はされていますか？	D種接地工事をします	

■電源プラグをコンセントに差し込み後、次の確認をしてください。



1. 電源プラグはしっかりと差し込まれていますか？
2. ランプ入 / 切スイッチを押すとランプが点灯しますか？
3. 風量切換スイッチを押して風量が切換わりますか？
4. それぞれの風量で運転した場合、振動や異常音がありますか？

■試運転後、天井および壁などに内装用接着剤や塗料が使用される場合がありますので、本体の保護のために保護材で覆ってください。